

2024年度 外国人留学生の受け入れと支援

尹 得霞

東北大学大学院教育学研究科

1. 外国人留学生の受け入れと支援について

東北大学大学院教育学研究科では、国際的な学術交流の促進および教育研究の質的向上を目指し、世界各国からの留学生受け入れを戦略的に推進してきた。中でも、中国、台湾、韓国、モンゴル、マレーシアといったアジア諸国から留学の問い合わせが数多く寄せられている。教育学研究科国際交流支援室（以下、国際交流支援室と略記）では、グローバル化を意識し、留学生の受け入れおよび学生生活支援に至るまでの包括的かつ体系的な支援体制を構築・運営している^(注)。

国際交流支援室の主な活動内容は、1) 研究生希望者の学力・研究能力評価に関する教員からの相談対応、2) 研究生希望者の日本語会話能力等の確認のための面談（Zoomなどを活用した映像面接）、3) 研究生希望者の研究計画書の作成に関する助言、4) 希望する教員の研究分野および研究活動等の説明、5) 研究生希望者との対応の結果に関する当該教員への報告および相談、6) 入学後の相談・サポート等であり、留学生の学生生活に関わる全ての業務窓口として対応してきた。これにより優秀な留学生の選抜と受け入れ、および入学後の支援に関し一定程度の成果をあげてきた。また、支援の実施にあたり、入学前および入学後において、オンラインや WeChat 等を活用した即時の相談体制をとることで、不安を抱えることの多い留学生活に対してきめ細かな支援ができるよう、さまざまな体制を整えている。

2. 研究生希望者に対する面談の流れ

研究生希望者の受け入れに関しては、教育学研究科では、1) 教員が直接留学生本人とコンタクトをとって受け入れを判断する形、および 2) 国際交流支援室に依頼して受け入れの判断に必要な資料を求める形、の二つがある。教員からの依頼を受けた場合、国際交流支援室が研究生受け入れに向けた支援活動を実施する。また、研究生希望者に対する面談は、研究生希望者と国際交流支援室助教の二者面談および研究生希望者と国際交流支援室助教、希望する教員の三者面談がある。以下に示す図1は、その支援活動の詳細について示したものである。

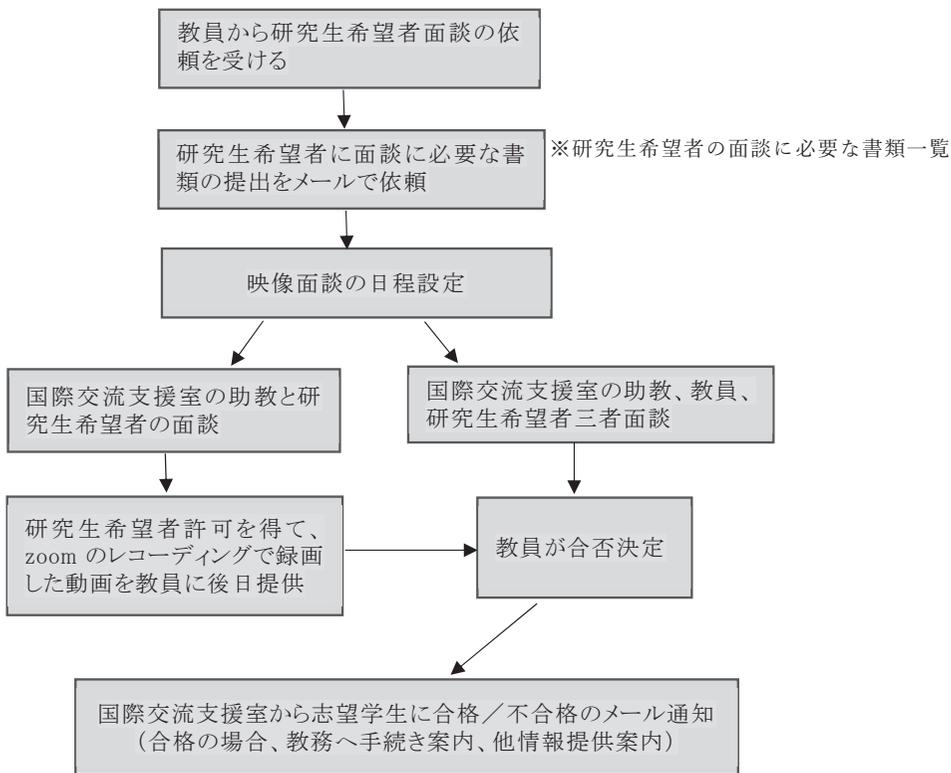


図 1. 国際交流支援室の支援活動の流れ

※研究生希望者の面談に必要な書類一覧

- ①日本語能力試験 1 級の点数と資料（証明書）
- ②履歴書
- ③研究計画書
- ④希望する教員の研究に関する本人の研究計画との関連性
- ⑤大学の卒業証明書のコピー
- ⑥成績証明書
- ⑦大学受験で獲得した点数

3. 中国からの研究生希望者の学力評価

本研究科における留学生受け入れ先は中国が大半を占めている。しかし、中国国内の高等教育機関の多様化と複雑性があるため、多くの教員が中国から研究生志望者の問い合わせのメールが届いても、現地の教育機関の情報入手が困難なため、該当学生が本研究科大学院において研究を行う上での基礎学力を備えているかどうか判断が困難である。そこで

国際交流支援室は、中国からの研究生申請者を中心に、研究生申請者面談に必要な書類一覧をまとめ、出身大学の学力水準と中国国内のライキングチェック、履歴書、成績証明書、資格などの各書類の確認、いわゆる外国学歴・資格評価(Foreign Credential Evaluation : FCE)を行い、その情報を教員に提供している。この FCE とは、外国で発行された卒業証明書や資格・履歴書の真偽性を確認すると同時に、当該国で取得された学歴が留学先国の教育制度の中でどのように位置づけられ、どの学歴と同等の評価であるかを審査するものである。この本研究科国際交流支援室独自の研究生入学希望者の学力評価支援の取り組みにより、優秀な留学生の選抜と確保を目指している。

4. 令和 6 年度の実施状況と今後の課題

令和 6 年度は、研究生入学志願者 36 名を対象に、受け入れ支援および面談を実施した。そのうち 6 名の志願者には、申請の前に大学院受験に関する相談を行った。また、2 名の志願者は内諾を得たが、最終的に、研究生としての入学を辞退した。

受け入れ対象コースは、教育情報アセスメントコース、教育政策科学コース、グローバル共生教育論コース、教育心理学コース、臨床心理学コースの 5 コースであった。また、本年度に実施された研究生受け入れの面談は、① 国際交流支援室の助教と研究生希望者による二者面談、および ② 国際交流支援室の助教、指導教員、研究生希望者による三者面談の二種類の形式で実施された。

前年度と比較すると、国際交流支援室への問い合わせ件数は若干減少している。その一方で、大学院入試に関する問い合わせ数は増加傾向であった。問い合わせを行った学生の多くは、大学院受験が可能なレベルの日本語能力を身につけていた。その理由として、日本語専攻の学生は卒業時点で一定程度の日本語能力を習得していること、および日本語専攻以外の学生も独自に日本語を学習し、大学院を受験するための日本語能力を身につけていることが挙げられる。

大学のグローバル化を推進する上で、優秀かつ多様性に富む留学生の受け入れを促進することは重要である。そうした点から、今後の国際交流支援室の課題として、以下の 2 点が挙げられる。

(1) 教員との連携強化

本年度は研究生受け入れに関する問い合わせの件数が減少したが、これは中国国内の留学動向と関連していると考えられる。本年度は、中国の大学生は国内の就職市場の変化や留学政策の影響を受け、海外留学を控える顕著であった。具体的には、重点大学(985/211 大学)卒業生の多くが、卒業後すぐに国内での就職機会を模索するケースが増えており、それに伴い、本学への問い合わせ数も若干減少したと推察される。

さらに、研究生に関する問い合わせが教員に直接寄せられていたが、そうした問い合わせが、国際交流支援室に共有されていない可能性も考えられる。部局における留学生受け

入れ業務を円滑に進めるためには、国際交流支援室と各部局教員との連携強化が不可欠であり、情報共有の仕組みを整備することが求められる。

(2) 入試相談対応のマニュアル化

本年度は、個別のケースに応じて入試前の指導・相談を実施したが、各コースの受験要件や試験形式が異なることから、今後さらなる入試相談の増加が予想される。そのため、国際交流支援室の窓口として、統一かつ効率的な対応を可能にするためのマニュアル作成が求められる。

これらの課題を改善することで、留学生の選抜および受け入れの円滑化を図るとともに、教育支援の質の向上にも寄与することが期待される。

注

現在実施している外国人留学生の受け入れと支援業務は、旧教育情報学教育部が 2015 年 4 月から開始し、2018 年 4 月に旧教育情報学教育部が教育学研究科と統合した後も同様のサポート内容で継続して実施している。